



主張

「つながる」「つなげる」

山本 豊

近年、全国的な教員不足の中での人材確保や働き方改革の推進、若手教職員の育成が求められる中、特別支援教育や不登校対策、生徒の問題行動など、複雑化・多様化する様々な課題にも直面しています。これらの解決を図るためには、学校内外の多様な人材の力を結集し、目標の実現に向け、組織的に対応することが不可欠です。また、「公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針」では、校長に求められる基本的な役割として、①学校経営方針の提示、②組織づくり、③学校外とのコミュニケーションの三点が示され、これからの時代においては、アセスメントやファシリテーションも求められています。このような観点から、私たちの責務は、学校を取り巻く状況を把握し、学校内外の関係者の相互作用によって学校の教育力を高め、教育活動の充実を図ることだと言えます。

子供たちの生きる力は、学校教育だけで育まれるものではなく、多様な人々と関わり、様々な経験を重ねていく中で育まれるものです。学校に委ねられている課題を解決していくためにも、学校はより一層地域に開かれ、地域と積極的に向き合う必要があります。「地域とともにある学校」づくりのために私が心掛けたことは、積極的に地域に向向くという



ことでした。「地域を知る」「人を知る」ことを念頭に歩いた日々のごみ拾いは、様々な出会いをもたらしてくれるとともに、地域と子供たちの良さを知るきっかけとなり、連携・協働の礎ともなりました。

また、これまで学校の課題は、市及び県内の校長会での情報を基に検討し、方向性を探っていました。昨年、四年ぶりの参集形式の全国大会の運営を通じて、全日中や九州地区の校長会とのネットワークもでき、県内外の校長同士のつながりによって、校内の課題解決を図る手立てや新たな価値観を得ることができました。さらに、大分大会という共通の目的に向かって協議を重ねることによって、会員同士のつながりも深くなり、互いに支援し合える組織に成長できたように感じます。

「誰かが何とかしてくれる、のではなく、自分たちが『当事者』として、自分たちの力で学校や地域を創り上げていく。子供たちのために学校を良くしたい、元気な地域を創りたい、そんな『志』が集まる学校、地域が創られ、そこから、子供たちが自己実現や地域貢献など、志を果たしていける未来こそ、これからの未来の姿である。」

これは、私が副会長会の資料で出逢った言葉です。

子供たちが心身ともに健やかに育つことは、国や地域、時代を越えて、全ての人々の願いです。子供たちの幸せな将来を思い描きながら、「つながら」「つなげる」を中心に据え、双方向コミュニケーションのもと教職員を支援し、生徒一人一人の夢と希望を未来につなぐ使命を果たしたいと考えています。

(全日中副会長・前大分市立南大分中学校長)